

## vi 実習評価

### 1 成績評価（科目別実習評価）

#### (1) 評価時期

学則第9条の第1項の要件（時間数の3分の2以上の出席）を満たし、必要な学習内容の履修が終了したと認められたとき。

\*ここでいう時間数とは、平日実習すべき時間のほか、夜間や休日（祝祭日を含む）の時間外実習時間を含む。ただし、調整や研修の時間は除く。

#### (2) 評価内容・方法

科目実習評価表に基づき、教員により評価を受ける。当該科目の単位の認定にかかる評価であるので、事前に、学習内容の履修の終了を確認するに必要な、実習時間記入表、助産記録、課題レポート、その他の評価表等の提出を完了していることが要件となる。また、関連する履修内容評価表、事例検討、面接の結果も含む。

#### (3) 評価基準

3 助言・援助なしでできる

2 少しの助言・援助でできる

1 ある程度の助言・援助がないとできない

0 大幅な助言・援助をしてもできない

\* 「2」以上を到達目標とする。

#### (4) 実習の成績

A 100点～80点以上

B 80点未満～70点以上

C 70点未満～60点以上

\* 100点満点として60点以上を合格とする。

#### (5) 単位の認定

学則第10条の第1項の要件（当該科目の履修に必要な時間数を満たし、合格の評価を受けた者）を満たしたとき認められる。

### 2 履修内容別実習評価（段階評価・中間評価を含む）

#### (1) 評価種類

① 履修内容

② 課題・考察レポート

③ 目標到達度

#### (2) 評価時期

原則として、①と③については、実施後1日以内。②については、実習終了後1週間以内。

#### (3) 評価方法

①と③については、自己の目標到達度を確認し、以後の学習をより効果的に進めるためのものであるため、具体的な助言・援助が受けられるよう、実施後速やかに評価項目、チェック項目に基づき自己評価し、その後、教員もしくは指導者により評価を受ける。

②については、レポートの内容だけでなく、実習への取り組み状況等も評価する。

#### (4) 評価基準

3 助言・援助なしでできる

2 少しの助言・援助でできる

1 ある程度の助言・援助がないとできない

0 大幅な助言・援助をしてもできない

\* 「2」以上を到達目標とする。

### 3 実習評価一覧

実習科目	評価表等の種類	評価時期	評価者			備考
			指導者	教員	学生	
助産実践 基礎実習	助産実践基礎実習評価表（単位の認定）	科目実習終了後		◎		
	考察レポート 「専門職として必要な能力・自己目標と課題」	科目実習終了後		◎		
継続事例 実習Ⅰ	継続事例実習Ⅰ評価表（単位の認定）	科目実習終了後	○	◎		◎継続事例実習Ⅱの履修は、原則、継続事例実習Ⅰの評価を終了していることを条件とする。
継続事例 実習Ⅱ	継続事例実習Ⅱ評価表（単位の認定）	科目実習終了後	○	◎		
	継続事例助産過程評価表	継続妊婦面接2・4・6・8回目 継続母子1・2,4・5日目 1週間健診 家庭訪問 1か月健康診査	◎	○	○	
	指導技術評価表（沐浴・退院・家族計画）	個人指導終了後		◎	○	
分娩介助 実習Ⅰ	分娩介助実習Ⅰ評価表（単位の認定）	科目実習終了後	○	◎		◎分娩介助実習Ⅱの科目評価は、分娩介助実習Ⅰの履修を終了していることを条件とする。
	分娩介助実習Ⅰ評価表	分娩介助終了後	◎		○	
分娩介助 実習Ⅱ	分娩介助実習Ⅱ評価表（単位の認定）	科目実習終了後	○	◎		
	分娩介助実習Ⅱ評価表	分娩介助終了後	◎		○	
	考察レポート 「間接介助の役割」	科目実習終了後	○	◎		
相談・教育 活動実習	相談・教育活動実習評価表（単位の認定）	科目実習終了後	○	◎		
	集団指導評価表	集団指導終了後	○	◎	○	
	考察レポート 「集団指導の在り方」	科目実習終了後		◎		
地域母子 保健実習	地域母子保健実習評価表（単位の認定）	科目実習終了後		◎		
	考察レポート 「地域母子保健活動における助産師の役割」	科目実習終了後		◎		
助産管理 実習	助産管理実習評価表（単位の認定）	科目実習終了後		◎		
	考察レポート 「助産管理の実際と助産師の役割」	科目実習終了後		◎		

<備考> \*◎は主たる評価者、○は助言者（学生については自己評価）を表す。